



秘境駅を観光に活かす ぽっぽろ愛好会

▲秘境駅として名高い糠南駅。短い板張りホーム（車両のほぼ半分）と待合のヨド物置が不思議なコントラストを醸し出す。周辺は、夏は牧草地、冬は足跡一つない白い雪原が見渡す限り広がる。1955年、問寒別駅—雄信内駅間の仮乗降場として開業。
◀宗谷本線の稚内=名寄を走るキハ54形気動車。



雄信内駅の内部。貨車駅舎を利用した安牛駅。1925年開業。貨車を利用した秘境駅舎は、このほか町内には問寒別駅、上幌延駅、下沼駅がある。



1925年開業。国鉄時代の面影を残す重厚な駅舎の雄信内駅。いまから50年前、駅周辺に150人もの人が暮らしていたとは想像できない。周辺を見渡しても原野以外何もない。近くに風情を通り越した廃虚がある。

オンラインにズラリと並ぶ「オトノイル 風力発電所」の圧倒的な風景を求めて来る人々も少なくありません。ところが…。「ここ幌延町には、従来の観光客とはまったく違う層の人たちが訪れているのです。ある種みな似たような独特なムードを醸し出し（とは言え鉄ちゃんには乗り鉄、撮り鉄、廃鉄、録り鉄、車輛鉄、模型鉄、駅弁鉄、時刻表鉄と色々あるとのこと）、カメラも持っていて。それがいつしか、どうやら辺鄙な駅で乗降しているようだとか、秘境駅のブームが幌延にきているんじゃないか、っていう話になって。そこで、まず役場職員にできることは何だろうと考えたのです。一つは、まずその実態を把握するための調査や情報を集めること。もう一つは、その存在すら忘れていた小さな秘境駅から私たち自身が幌延を見直すきっかけづくりにして、新しいまちづくりにつながる発見をしたい、ということでした」と語るのは、幌延町役場総務課企画振興グループの主査、山下さん。そこで今年3月25

全国に推定で3万人とも、5万人いるとも言われている。「鉄ちゃん」と呼ばれる鉄道ファン。そんな彼らに「秘境駅の里」として大きく注目されている幌延町。きょうもここに聖地を求め、鈍行を乗り継いで来る者がいる。

鉄道資産を観光と町づくりに

世の中には色々な専門家がいる、思いがけないランキング付けがあるもの。例えばそれは「秘境駅訪問家」として知る人ぞ知る牛山隆信氏であったり。そして氏が実際に自分の足で全国の駅を旅し「雰囲気」「列車到達難易度」「外部到達難易度」「鉄道遺産指数」を自己採点し、総合的に秘境度を評価した「秘境駅ランキング」であったり。

その秘境駅ランキングの2015年度版を見ると、宗谷本線が多く登場してきます。驚くべきことに、幌延町内にある8つの駅のうち6駅がベスト100に入っているのです。ある意味、こんなにも秘境駅のある幌延町と宗谷本線は大丈夫なのだろうか？と存続を心配してしまっただけなのですが、全国の鉄道ファン、通称「鉄ちゃん」と呼ばれる人からすると、幌延は「秘境駅の里」として特別な存在

日に「秘境駅の里『ほろのべ』」をキヤッチフレーズに「ぽっぽろ愛好会」立ち上げの総会を開き、幌延町役場職員の有志で、当面の目標や活動を取り決め、新しい観光振興や駅と線路から町づくりを探る動きが活発化してきました。

「私は鉄道に関してまったくの素人。何も知らなかったのです。そこでまず私たちが、秘境駅とは何か“を知るための講習会を開き、秘境駅を訪ねることから始めました。メンバー（現在16名、うち主力7名）の他に稚内信金の職員にも参加してもらいアイデアを出し合い、ようやくいくつか実現するところまでできました。」

幌延町には次のような駅があります。稚内方面から言うところの「幌延」は上幌延—南幌延—安牛—雄信内—糠南—問寒別（寒別）となります。カッコ内は秘境駅から除外されますが、幌延駅も過去には羽幌線の機関区を持っていたり、問寒別駅は殖民軌道から始まる町営簡易軌道の起点だった歴史を有するなど、幌延は元来

で、熱い視線を集めているのです。

幌延は北半球の下真ん中、北緯45度の町ですが、これまでここを訪れる観光客の目的は限られたものでした。その多くは「トナカイ観光牧場」や「青いケシ（ブルーポピー）」の見学。付近に立地する深地層研究センターの「ゆめ地創館」に足を伸ばす人もいます。あるいは雄大な「サロベツ原野」や日本のオロ



交流が生まれる新たなコミュニティづくりも同会では考えている。今回、駅名標入りの携帯クリーナーを製作し、平日のみ役場にて販売（1個300円税込）し、データ分析にも役立てる。購入者から町の活性化アイデアも募る。



ぽっぽろ愛好会
会長 山下 智昭さん
幌延町役場総務課 企画振興グループ 主査
☎01632-5-1111
<http://www.town.horonobe.hokkaido.jp/>

「鉄道の町」であったことが分かります。ぽっぽろ愛好会では、そのような歴史や失われた記憶も町の鉄道資産として捉えながら、今夏から「宗谷の鉄路／昭和の残像」写真展をはじめ、青春18きっぷを利用した「幌延駅発着／町内全駅制覇ツアー」の実施、「鉄道フォトコンテスト」の募集、「糠南駅の携帯クリーナー」を製作したりと町内外に大きなインパクトを与えています。さらに、長期的に「幌延駅発着・秘境駅ウォーキングラリー」を考案。文字通り普通列車と徒歩を組み合わせたプランで、6つの秘境駅にそれぞれ初級〜超ド級のポイントを設け、集めたポイント毎に、ぽっぽろ愛好会オリジナルグッズ（ストラップなど）をプレゼントする予定であるとか。また、旧羽幌線の使用済み切符などが入ったプレミアムなカプセル（通称ガチャガチャ）なども企画中。

「当面は10月開催予定の『世界秘境駅サミット』に向け、全国へ情報発信をしていきたい」とのことでした。

FOREVER 宗谷本線

あなたが普通列車（鈍行）に乗った最後はいつでしょう？学生時代？旅先で？時々テレビで列車の旅番組が放送されますが、車窓から望む豊かな自然の景色を見ると、たまにはのんびり普通列車に揺られて見知らぬ土地を訪ねてみたいくなります。

しかし、身近な路線の時刻表を見ると、普通列車の本数が少ないことに驚愕します。かつては日本の隅々にまで線路を延ばし、地域の発展に大きく貢献した鉄道のイメージは過去のものであり、現在の路線や駅を取り巻く環境は厳しいものがあります。

さて、昨今は北海道新幹線開業の話が先行しているようですが、新聞などによって留萌線の一部廃線、秘境駅No.1の小幌駅をはじめ石北本線にあるいくつかの秘境駅の廃駅が報道されています。そればかりか「JR北海道再生のための提言書」を受けたJR北海道は、安全を見直すとともに「選択と集中」「聖域のない検討」をもって企業体質の改善に向うでしょう。提言書の中には1キロあたりの1日平均利用者数が500人以下である「宗谷本線」の名寄～稚内も取り上げられています。幌延の秘境駅もいつまでも安泰であるとは限りません。しかし幌延だけではなく、沿線の秘境駅を持つ自治体が「ぽっぽろ愛好会」のような活動を開始すると、駅の乗降客と路線の利用客が増加し、一日も長く存続させることができるはずです。その意味では、堂々と胸を張り、声高らかに「秘境駅の里『ほろのべ』」を宣言しPRを開始した同会は高く評価されるべきでしょう。観光と秘境駅を結び付ける難しさを実感されつつも、いつまでも人を惹き付ける幌延であってほしいと思います。

◀JR宗谷本線と幌延の位置図▶

